

立命館 災害復興支援室 瓦版

かわらばん

【第25号】2014年11月21日発行

【報告】

夏期休暇中多くの学生が旅費支援制度を利用し東北被災地で支援活動を行いました

立命館ではこの夏、東日本被災地域のボランティアへのニーズの多様化や細分化を受けて、本学学生を対象に後方支援スタッフ派遣プログラムを行なうとともに、個人、サークル、課外活動等グループなどの小集団で活動を行なう場合もその活動を支援することとし旅費の一部支援制度を行い、募集しました。

その結果80名近い学生がこの制度を利用し、東北学院大学プログラム、関東や東京に拠点を持つ支援団体、県が主催するプログラム等々に自発的に応募し、活動を行いました。

活動を終えた学生から復興の遅れへの驚き、現地の方々との交流を通して現地へ訪問する意味、自分たちの活動の意味などそれぞれの思いが多く寄せられています。

この制度は今回初めての取り組みで課題もありますが、今後も長期休暇中の支援活動の方法として検討していきたいと考えています。

▼活動の様子



大学生・院生対象ボランティアバス「後方支援スタッフ派遣プログラム」の報告

●第25便
気仙沼 鮎立ツリーハウスプロジェクト
前回(6/19日～24日)の派遣に引き続き、8/17(日)～24日(日)に、宮城県気仙沼市の唐桑半島・鮎立(しびたち)地区でまちの活性化に取り組む地元関係者、糸井重里氏率いる「気仙沼のほぼ日」そして東北ツリーハウス協

会と連携し7名の学生が、6月の現場整備作業に続き今回もウッドデッキづくりに取り組みました。ツリーハウスに使う資材の運搬と海岸での流木拾いを行ない、地元の方などのメンバーの方々と共にこれから作るツリーハウスのイメージについて意見を出し合い、予定地でのデッキのサイズの確認や草取りを行いました。

津波被害を免れた場所にて、人々が集い、豊かな湾を見渡し、思いを語り合える場が生まれる日を想像しながらの作業しました。次回の派遣では、デッキ完成に向けて更なる活動を行なう予定です。

▼活動の様子



●第26便 福島漢字探検隊2014

2012年度から開始し実施3回目となる「漢字探検隊」を10/9(木)～13日(月)福島県で開催しました。学生3名が立命館大学の研究所が全国で展開している子ども向けの体験型講座「漢字探検隊」運営のサポートを通して被災地域の子供たちと交流をしました。南相馬市では福島の風評被害の払拭や福島の人々の生活と産業の復興を目的に活動している団体を訪問、福島市の除染情報プラザでは除染についての基礎知識や進捗状況についての講義を受けました。

▼【参加した学生の声】

東北のさまざまな現場を自分の目で見て、復興と防災を考える必要があると思い26便に参加しました。福島は気仙沼などのように直接、津波の被害を受けたわけではありません。放射能汚染による風評被害など目に見えにくい被害で、復興の関わり方も変わってきます。震災によって福島の人たちは悩

み苦しんでいるというイメージがありました。悩みながらも福島の復興にむけて尽力しようとする熱意が福島の人たちの目から伝わってきました。このことを京都に持ち帰り、みんなに伝えていくことが福島の復興への貢献になると思います、今日から実行していきたいです(国際関係学部3年生)

▼活動の様子



●第27便 気仙沼 鮎立ツリーハウスプロジェクト

プロジェクトの3回目の派遣として10月16日(木)～20日(月)に唐桑半島・鮎立(しびたち)地区での活動を行いました。9名の学生が、bird house(巣箱)作りに取り組みました。ツリーハウスの周りに設置するバードハウスを制作しました。また、ツリーハウス予定地の隣にある板張りの蔵の整備のお手伝いや、蔵のリノベーションに使用するため、解体された民家から譲り受けた杉板を焼いたり、スレート(屋根に使用される建築資材)を洗うなど取りくみました。今後はツリーハウス本体の制作を行なう予定です

▼活動の様子



豪雨被害復興支援の取り組み レポート

今年8月～9月、関西および中国地方における台風・豪雨被害の発生を受け京都府福知山市、綾部市と広島市へ災害ボランティア活動を行いました。

●福知山豪雨水害ボランティアバス
8月28日(木)京都府福知山市堀口地区において学生9名、教員1名が参加しました。自治会長のコーディネートで道路整備、個人宅の家財運び出し、自治会館清掃、個人宅の農作物撤去などの活動を行いました。参加した学生からは被害は思ったほど甚大ではないが、高齢者には大変な作業である。次は個人でも来て支援したいなどの感想が寄せられました。

▼活動の様子



●広島市豪雨被害への学生派遣バス

8月19日(火)～20日(水)朝にかけて広島市で土砂災害が発生しました。災害復興支援室では9月17日(水)～19日(金)学生13名が広島市安佐南区、安佐北区を中心に畑の土砂撤去、土裏運搬作業、民家集辺道路の泥掃き掃除など支援活動を行いました。参加した学生からは『土裏運搬、泥掃きなど想像以上に人手や手間がかかる事を身をもって知ることが出来た』『もっと効率的に、もっと現場で役に立ちたい。ボランティアセンターの方、地元の方々から温かいねぎらいの言葉をかけていただき、大学生なりにもっと復興の力になるにはどうしたら良いのか』など、感想が寄せられました。

▼活動の様子



●綾部市豪雨水害ボランティアバス

10月18日(土)に学生18名が綾部市小西地区で農地災害復旧支援活動を行いました。立命館大学、里山ねっとが連携して8月、9月の豪雨災害で水路にたまった土砂を除去し、一輪車に積んで農道に運び、路面の凸凹の修復のお手伝いをしました。自治会長からは「住民が高齢化しているので、若い学生さんの力をお借りして作業が出来たことがうれしい」と感謝の言葉をいただきました。

▼活動の様子



●大船渡お祭りサポートプロジェクト

立命館大学では、毎年2012年の夏より岩手県大船渡市の夏の地域の催しを応援しており、今年8月2日(土)～9日(土)「大船渡お祭りサポートプロジェクト2014」に学生が25名参加しました。8/4(月)地域の方々から「夏休みの子どもたちの遊び相手になってほしい」というご要望を受けて他大学の学生たちと小学校の学童施設に学習支援を行いました。5日は「盛町灯ろう七夕まつり」

では、七夕の笹飾りの設置や屋台のサポートや大船渡市の盆踊り「道中踊り」に参加し、地域の皆さんと一緒にお祭りを盛り上げました。

▼活動の様子



●オール立命館校友大会での活動展示紹介

10月28日(土)立命館大学校友会開催「オール立命館校友大会2014in岡山」の催しのなかで災害復興支援室の取り組みパネル展示、今夏豪雨災害被災地(福知山市、広島市)支援活動を行なった学生たちの活動紹介、写真展示を行いました。当日は130名近くの方に来場いただきました。来場された皆様は熱心に学生たちの活動報告に耳を傾け、学生たちがこの日のために作成した冊子「広島豪雨災害学生派遣活動報告」を手にとり「復興活動を応援したい。頑張ってください」と温かい励ましの言葉をいただきました。

学生からは、『また機会があれば災害ボランティアに参加して体験談を周りの方々へ広めていく活動をしていきたい、学生を対象とした報告会を開催したい』などの感想が届いています。

▼活動の様子



今後の主な取り組み予定

○後方支援スタッフプログラム第28便(12/19日～22日)

サンタが町にやってくる!～岩手★おおふなと★大作戦～

被災地の子供たちと一緒にクリスマスを祝い、支援活動を通して、被災された方々の現状を知る学びの機会として取り組みます

○2015年1月土曜講座

「巨大災害にどう向き合うか」～阪神・淡路大震災から20年～

開催日: 1/17日、24日、31日 衣笠キャンパス末川記念会館講義室 午後2時～4時

詳細につきましては、是非HPをご覧ください。

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要性があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しました。<公式web <http://www.ritsumei.ac.jp/rs/20110311/>>

編集後記

夏季休暇中東北の被災地に多くの学生が自ら支援プログラムを探し、交通機関の手配を行い、活動を行いました。また、豪雨災害復興支援取り組みにも積極的に参加し、現地で頼もしく活動してくれました。自主的に参加してくれる学生が増えてきています。夏期休暇中の支援活動の様子引き続き皆様のご支援をお願いいたします。(ひ)

